

ベトナム人介護技能実習生入国第 1 陣の 入国直後のデプスインタビュー報告

A Report on the Depth Interview to the First Group of Vietnamese Care-Skill Trainees after Their Immigration

小平 達夫

KODAIRA Tatsuo

【要約】

技能実習制度の対象職種に介護職が加わり、続いて国内の介護人材不足の解消のために特定技能実習制度において、対象職種に、介護職も加えられ、介護人材の枯渇解消に両制度に対する期待は高まっている。

介護技能実習生の中でもベトナムの介護技能実習生の数は最も多いが、現時点においてベトナム人介護技能実習生に対する研究事例は皆無に等しい。今回、早期段階に入国したベトナム人介護技能実習生へのデプスインタビューを行い、入国直後の彼らの状況、考え、思い、日本を選んだ理由等のヒアリングを行い、彼らの実態を明らかにした。

キーワード ベトナム人介護技能実習生 外国人技能実習制度 大阪 APS コンソーシアム
デプスインタビュー

I はじめに

2017 年 11 月 1 日（平成 29 年 11 月 1 日）の「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」（平成 28 年法律第 89 号 以下「技能実習法」という）の施行にあわせ、外国人技能実習制度¹の対象職種に介護職が追加された。他の職種と比べると、対人業務であるが故に、日本語でのコミュニケーション能力がより求められる。

続いて、特定技能実習制度が導入された。2018 年 12 月 8 日（平成 30 年 12 月 8 日）、第 197 回国会（臨時会）において、「出入国管理及び難民認定法及び法務省設置法の一部を改正する法律」が成立した。この改正法は、在留資格「特定技能 1 号」「特定技能 2 号」の創設、出入国在留管理庁の設置等を内容とするものであり、「特定技能 1 号」として介護職も認定された。

技能実習制度の目的²は、我が国で培われた技能、技術又は知識（以下「技能等」という）の開発途上地域等への移転を図り、当該開発途上地域等の経済発展を担う「人づくり」に寄与する。」という、国際協力を基本としている。

一方、特定技能実習制度の目的は、中小・小規模事業者をはじめとした深刻化する人手不足に対応するため、生産性向上や国内人材の確保のための取組を行ってもなお人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野において、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人を受け入れていくものであり、介護職も対象になっている。

つまり、技能実習制度の目的は海外への技術移転に対してであり、特定技能実習制度の目的は国内の人手不足解消である。そして、介護職も含まれるが、職種によっては第 2 号技能実習修了後、特定技能 1 号への移行が可能であり、技能実習生の労働力としての期待は今後ますます高くなると思われる。

介護技能実習生の入国状況³を見ると、平成 30 年度の技能実習計画認定件数は 1,823 件であり、全体職種における占有率は 0.5%と(1,823/389,321 件)まだかなり低い状況である。介護技能実習生の国籍・地域別の技能実習計画認定件数を上位から見ると、1 位はベトナムの 653 件(35.8%)、2 位はインドネシアの 322 件(17.7%)、3 位は中国の 320 件(17.6%)、4 位はミャンマーの 258 件(14.2%)となっており、ベトナムが 2 位のインドネシアを大きく引き離している。

ベトナムからの多くの介護技能実習生が来日する背景は、以下により説明ができる。2017 年 6 月に「日本国法務省・外務省・厚生労働省とベトナム国労働・傷病兵・社会問題省との間の技能実習に関する協力覚書(MOC)」⁴の署名が行われた。続いて、2018 年 6 月には日本政府の健康・医療戦略推進本部がベトナムの労働・傷病兵・社会問題省と介護人材の受入れ促進で合意に至った⁵。2019 年 7 月には介護・医療で日本とアジア各国が協力を進める「アジア健康構想」⁶の下、「日本国内閣官房健康・医療戦略室、日本国厚生労働省及び日本国経済産業省とベトナム社会主義共和国保健省との間のヘルスケア分野における協力覚書」⁷の署名が行われた。

以上により、今後もベトナムからの介護技能実習生の来日に対する期待は高いが、ベトナム人介護技能実習生に関する研究はまだほとんどなされていない状況である。そこで、今回は日本への入国第 1 陣のベトナム人介護技能実習生への入国直後のデプスインタビューを試みたので、その結果を報告したい。

今回、大阪府を拠点とする社会医療法人愛仁会⁸、社会医療法人ペガサス⁹、社会医療法人生長会¹⁰で構成する「大阪 APS コンソーシアム」¹¹の技能実習生 11 名に、日本への入国 5 日目に実施したものである。

大阪 APS コンソーシアムの特徴は、大阪 APS コンソーシアムの各社会医療法人より 1 カ月単位で介護現場の中堅クラスの職員がベトナムに派遣され、来日前の介護技能実習生に日本式介護教育を行うシステムにある。

II 調査目的

制度導入の早期段階にて入国したベトナム人介護技能実習生へのデプスインタビューを

通じて、入国前と入国直後の彼らの状況、考え、思いなど彼らの実態及び受入れ側の今後の課題を明らかにすることを目的とする。

Ⅲ 調査方法

1. インタビュー調査

- (1) 調査期間：2019年4月28日
- (2) 調査場所：社会福祉法人生長会 特別養護老人ホーム ベルファミリア
- (3) 調査対象：社会医療法人愛仁会、社会医療法人ペガサス、社会医療法人生長会で組成するコンソーシアムの大阪 APS スキルラボ出身のベトナム人介護技能実習生 11 名
- (4) 調査方法：他記式調査（個別面接法）を日本語にてデプスインタビューで実施した。
- (5) 質問項目：調査内容の概要は次の通りである。
 - 1) 日本の感想
 - 2) 現在の気持ち
 - 3) 不安なこと、悩みごと、困りごと
 - 4) 来日して嬉しかったこと、楽しかったこと
 - 5) 来日して驚いたこと
 - 6) 技能実習先として日本を選んだ理由
 - 7) 介護職を選んだ理由
 - 8) ホアンロン教育訓練センター¹²での寮生活、大阪 APS スキルラボで大変だったこと
 - 9) ホアンロン教育訓練センターでの寮生活、大阪 APS スキルラボで楽しかったこと
 - 10) 大阪 APS スキルラボ修了から入国許可が出るまでの 3 カ月間の気持ち
 - 11) 将来の夢及び目標

2. 倫理的配慮

大阪 ASP コンソーシアムの責任者に対し、事前に文書で調査協力を依頼し、承諾を得たうえで実施した。調査対象者には、口頭及び書面で、研究趣旨、協力は任意であること、個人や施設が特定されないこと、調査結果を公表することを明示し、研究協力を得た。本調査は、富山短期大学倫理審査委員会（R2-8）の承認を得て実施した。

Ⅳ 結果

回答の全体的な概要に関しては末尾に表 1 から表 4 として付ける。

1) 日本の感想

7名より環境の良さに関する回答があった。具体的には、空気のきれいさ、道のきれいさ、景色のきれいさ、交通の便利さであった。また、1名ではあったが寮の設備のよさを回答した。

興味深い回答として、日本の感想についての回答を求めていたが、到着ロビーでのベトナムでの複数の日本人介護教員による出迎えに喜びを超えて、感激していた実習生がいた。

2) 現在の気持ち

嬉しい・楽しいと回答した実習生は 2 名、嬉しい・楽しい・心配・寂しいと回答した実習生は 5 名、寂しいと回答した実習生は 1 名、緊張しているという実習生は 1 名いた。11 名中 4 名の技能実習生が急激な生活環境の変化を複雑な気持ちで捉えていた。

3) 不安なこと、悩みごと、困りごと

日本語に関することと生活環境に関することであった。具体的には、日本語が通じるのか、聞き取れるか、方言（関西弁）が理解できるか。また、Wi-fi 環境がないと家族と話せない。道に迷ったら不安であるという回答であった。

介護技能実習生の入国要件の一つとして、日本語能力試験¹³N4 程度とあり、今回インタビュー調査した 11 名の技能実習生のうち日本語能力試験 N3 取得者は 9 名いたが（取得率 81.8%）、これら 9 名は日本語能力試験 N3 を取得しているにもかかわらず、日本語での日常生活・職業生活において不安感をいただいていた。

このことからコミュニケーション能力が求められる介護職では日本語能力の重要性を改めて理解することができた。彼らとの日本語でのインタビューを通じて、日本語能力試験 N4 程度での日本での日常生活・職業生活は難しく、受入れ側である介護現場での指導員や職員とのコミュニケーションにおいての苦労が予想された。円滑な日常生活・職業生活への移行を果たすには日本語能力試験 N3 程度の能力が望ましいと考える。

4) 来日して嬉しかったこと、楽しかったこと

大阪 APS スキルラボの日本人介護教員との再会、日本人介護教員や同期の実習生と桜を見に行ったこと、いちご狩りに行ったこと、寺院見学、日本食（天ぷら、おすし、お好み焼き）を食べたこと、日本に住んでいること、日本で働けること、充実した寮の設備などがあった。

回答の中で「大阪 APS スキルラボ日本人介護教員との再会」があったが、本回答は大阪 APS コンソーシアムならでの回答である。実習生達が不安や心配を抱きながらも安心感と期待感をもって来日できたのは、ベトナムでの日本人介護教員が技能実習先での上司・先輩となる本システムによるものであると考える。

5) 来日して驚いたこと

空気のきれいさ、道のきれいさを回答した実習生が 6 名いた。また、日本の水洗トイレ（自動で流れる、便座の温かさ、ボタンの多さ）や寮の電化製品の多さと回答した実習生もいた。

6) 技能実習先として日本を選んだ理由

本項目を入れたのは、事前にベトナム人介護職が、ドイツ、台湾等に行くという情報があり、日本を選んだ理由を把握することにより、今後、日本を選択する介護技能実習生の確保に繋げることができると判断したからである。実際にヒアリングをしてみると、今回、ドイツを意識していた実習生が 3 名、台湾を意識していた実習生が 1 名いた。

日本を選んだ理由をカテゴリー別にとすると、5 つに分けられた。①日本の経済力・技術力 ②日本の文化・気候③日本の高齢社会への対応（日本の少子高齢社会という現状を理解して

いた) ④家族・知人の勧め(親、兄弟、友人、親せき、親の知人など周囲の身近な人からの勧めであった) ⑤ベトナム人と日本人との親和性(文化や顔が似ている。ドイツ人の体形は大きく、小柄なベトナム人には負担がある。日本人の体形はベトナム人と似ているので、腰への負担が少ないとのことであった。)

また、①の経済力とは、日本での収入の高さも意味しており、新古典派経済学理論に基づく「プッシュ＝プル理論」を示しており、国際労働移動においてベースとなるものである。

7) 介護職を選んだ理由

介護職を選んだ理由をカテゴリー別にとすると、2つに分けられ、①高齢者に対する好意的な思い、②ベトナムにおける看護師としての病院勤務の難しさであった。実習生の中にはこの先の自分の将来において、ベトナムでの病院勤務、それも日系病院での勤務を希望しているケースもあり、今回の介護職としての勤務をキャリア形成と捉えている技能実習生がいた。

また、彼らが高齢者に対する好意的な思いを抱いているのは、ベトナムの敬老思想に起因していると考えられる。

8) ホアンロン教育訓練センターでの寮生活、大阪 APS スキルラボで大変だったこと

大別すると3つに分けることができた。①日本の社会ルールに基づいた寮生活、②毎日の10時間学習、③大阪 APS スキルラボでのおむつ交換、排泄介助、介護の専門用語の理解などがあった。①日本の社会ルールに基づいた寮生活とは、規律性を重んじる生活でありベトナム人には息苦しさを感じるものであるが、日本社会への早期適応には非常に重要である。同じく寮生活において、全員が毎日10時間の日本語学習をしており実習生の相当な努力の姿を見た。

また、大阪 APS スキルラボでの学習開始時の日本語能力は全員が日本語能力試験 N4 取得者であるが、日本人介護教員の話す内容を聞き取れるようになったのは大阪 APS スキルラボでの介護教育の開始より3カ月後であった。

9) ホアンロン教育訓練センターでの寮生活、大阪 APS スキルラボで楽しかったこと

大きく3に分類できる。①大阪 APS スキルラボの日本人介護教員との時間の共有、②同期の実習生との時間の共有、③大阪 APS スキルラボでの学習であった。特に、①日本人介護教員との時間の共有においては、8名から回答があった。そこでは授業以外での技能実習生と日本人介護教員との人間的繋がりがあり、その中で信頼関係が築かれてきたことが見えた。また、定期的に日本から介護教員が派遣されてくることを楽しみにしている実習生もいた。

10) 大阪 APS スキルラボ修了から入国許可が出るまでの3カ月間の気持ち

本来であればベトナムでの入国前講習が修了した後、1カ月から2カ月で入国できるフローであるが、今回実習生たちは入国までに3カ月を要した。全員が心配、不安であったと回答しており、6名が家族から頻繁に入国について訊かれ、うち2名においては父親から日本行きを断念するように言われていた。

そのような不安定な状況の中、実習生全員が日本へ行くことを諦めず、日本に行けること

を信じていた。このように技能実習生達が思えた要因は、受入れ側である大阪 APS コンソーシアム事務局、帰国した大阪 APS スキルラボ日本人介護教員などからの SNS での彼らへのメッセージの発信や大阪 APS コンソーシアム事務局や大阪 APS スキルラボ日本人介護教員らの訪越での彼らへの直接的な励ましにある。

11) 将来の夢及び目標

将来の目標においては、日本での滞在期間で見ると短期(3年間)、中期(3年から10年)、長期(10年から永住)に分けることができた。短期(3年間)滞在希望者、つまり技能実習期間満了と共に帰国を希望する技能実習生は1名、中期(3年から10年)滞在希望者は9名、長期(永住)滞在希望者1名であった。中には、日本人との結婚を考えたい、という技能実習生がいた。

また、ベトナムに帰国した場合のキャリアとしては、複数回答になるが、ベトナムの日系病院が3名、ベトナムの日系病院またはベトナムの介護施設が3名、通訳・日本語教員が4名、ベトナムでの介護指導教員が1名、中には介護センターの起業、書店開業と回答した技能実習生もいた。11名中7名が、日本語を活用した職業を希望していた。

また、日本滞在中でのキャリア開発としては、日本語能力試験の N1 取得希望者が2名、N2 取得希望者が3名いた。

V 考察

多くの技能実習生が、ベトナムでの介護教員との再会に喜び、感激していた。入国直後に、ベトナムでの日本人介護教員と観光地を巡り、食事を共にし、再会を心より喜んでいた。また、不安な気持ち、心配を抱えていたが、ベトナムでの日本人介護教員の存在が心の支えとなっていることが分かった。これは、大阪 APS スキルラボを中心としてベトナムにおいて、技能実習生と将来の上司であり同僚となる日本人介護教員との信頼関係が築かれたことを示唆するものであり、技能実習生の日本社会への円滑な移行を果たす上で重要な役割を果たしていると考えられる。

具体的な心配ごととしては、日本語でのコミュニケーションを挙げており、日本語能力試験 N3 保有の技能実習生でも日本語でのコミュニケーションについて不安を抱えていた。介護職は、他の技能実習の職種より日本語でのコミュニケーションを求められることが改めて示された。

要望事項としては、ベトナムの家族とのコミュニケーションを図るために、住まいでの Wi-fi 環境があり、入国後の家族からのメンタルなサポートも必要だと思われるので、入国直後から Wi-fi が使用できる環境完備は必要である。また、地理的な不安も抱えており、スマートフォンの地図アプリを使用できるインターネット環境も必要であると考えられる。

日本を選んだ理由として、収入の高さは根底にあるが、アニメ・漫画¹⁴を含む日本文化、日本の自然や気候、文化の親和性、体形の類似性、家族・知人の勧め、日本への憧れがあった。回答にあるドイツ、台湾といった国々との介護人材獲得競争における参考になるものである。

また、ベトナムの国の事情として、看護職の求人の少なさ、それに加えて低収入が海外労働へのプッシュ要因となっている。

将来の夢、目標については、全ての技能実習生が考えており、キャリア形成という視点を持ち、日本語能力試験 N1、N2 を目指す技能実習生が存在し、単に収入のみのために来日した技能実習生はいなかった。今後、技能実習生のキャリア開発支援を行うことも技能実習先として選ばれる上で重要になってくると考える。

また、帰国した場合の就職希望先は多岐にわたっており、現時点では技能実習制度の本来の目的である技術移転がなかなか困難であることが判明した。共通して言えることは、修得した日本語を活用できる職業というものであった。

VI おわりに

2017 年（平成 29 年）11 月 1 日の「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」の施行にあわせ、外国人技能実習制度の対象職種に介護職種が追加され、本格的に介護技能実習生の入国が開始した。

今回、介護の概念がないベトナムから看護課程を修了した技能実習生が、どのような考えや意識、思いを持って入国してきたかを直接聞くことができた。

インタビューで実習生に自分の将来について尋ねたが、ほとんどの実習生が今後の自身のキャリアについても考えており、それぞれにキャリア志向があると判明し、今後の介護技能実習生を受け入れるにあたり、受入れ側は、彼らのキャリア開発支援という視点を持つことが必要であると考ええる。

また、今回の技能実習生は全員が新規学卒者である。新社会人として日本という海外で働き始めることは、日本人学生より精神的な負担や肉体的な負担がかかると思われるので、彼らのメンタルヘルスにも注視していく必要があると考える。

今回のデプスインタビューでは、対象者とインタビューが対一で行うことにより、表層的な情報収集ではなく、対象者の考え・思い・行動実態を、詳細にヒアリングすることができた。同時に、質問紙調査（定量的調査）も実施しており、両調査の結果を統合することにより、新たな知見を見出せると考える。

今後とも引き続き技能実習生に対して継続的にデプスインタビューを行うが、技能実習 2 号が修了する 3 年後、彼らは一旦、ベトナムに帰国し、1 カ月以上の滞在が求められる。その後、日本に戻って来るのか、そのままベトナムに残るのか。その決定までのプロセスをしっかりと追跡していきたい。

付記 本報告書は、富山大学大学院人文科学研究科提出の修士論文（2021）の一部改変に基づくものである。

表 1 1 期生ヒアリング内容

NO	1	2	3
	日本の感想	現在の気持ち	不安なこと、悩み、困りごと
1	・家族と別れて寂しい ・先生、友達が応援してくれて安心した	・楽しく、面白い車がいっぱい、バイクが少ないと感じた	・日本語が上手ではない
2	・先生たちといろんな所に行きました(いちご狩り、お寺、公園、海)楽しかった・友達と日本料理を食べに行き楽しかった(お好み焼き・すし・天ぷら)	・日本の生活に慣れました・便利・自動販売機が沢山ある・いつでも飲みたいときに飲める・コンビニ、スーパーがたくさんある	・日本語が上手ではない・スピードが速いけど慣れました・道が分からない
3	・空気がきれい・道も車もきれい、交通も便利、ベトナムと比べたらすごい・物価が高い・日本人は丁寧、店に入ったらお辞儀をする	・友達と離れることが寂しい	・友達と離れることが寂しい
4	・部屋が広くてきれいで便利、部屋にお風呂があり、何でもある	・日本語が上手ではない、聞き取りにくい、どんな日本語を話したらいいか分からない日本にいて心配ですが、日本人と話して安心した	・夜、寝る時に家族のことを思うと寂しくなる
5	・道がきれいでみんな信号を守る・寮、スーパー、コンビニもいい・空気がおいしい	・日本語が心配、日本語が分からない、聞きにくい、文字を読むのは大丈夫	・フリーWiFiがないので道に迷うと不安
6	・道がきれい・おいしい空気・マスクをしていたがしなくなった	・嬉しいでも不安なので家族と毎日話している	・日本語のこと・高齢者とのコミュニケーション
7	・嬉しいが、家族と別れて寂しい・APSの先生方が関西空港で待っていてくれて嬉しかった	・寮がきれいでうれしい・空気が綺麗・TVは早口で聞き取りにくい	・家族とWiFiで話すが、外にないので困っている・道が分からない・自転車がほしい
8	・日本人は優しいと思った・景色がきれい・春がきれい	・嬉しい	・6月1日より働くところが不安・日本語がまだ下手・コミュニケーションが心配
9	・どこもきれい・自動販売機があって便利である	・家族と離れてちょっと寂しい・先生たちの応援があるから大丈夫	・日本語が不安、携帯電話が使えない場所があること
10	・思ったより素晴らしい、ホコリがない、自動販売機が多い、交通も便利・ようやく来れて嬉しいが、家族と離れて寂しい	・心配なことはない、ようやく日本に来てうれしい	・日本に来たばかりだからいろんなことが分からない・さらに仕事ができるかできないか心配です・6月から仕事ができるか、同僚と仲良くできるか、関西弁が分かるか心配です。
11	・道が便利・空気がいい・花がある	・緊張してます	・日本語が上手ではない・日本語のスピードが早く聞き取れない・交通ルールが分からない

表 2 1 期生ヒアリング内容

NO	4	5	6
	日本に来て嬉しかったこと 楽しかったこと	驚いたこと	日本を選んだ理由
1	・先生たちいろいろな所に行きました(いちご狩り、お寺、公園、海) 楽しかった・友達と一緒にご飯を食べた・日本料理を食べた(お好み焼き・すしいっぱい食べた、天ぷら)	・空気がおいしい・道がきれい→交通ルールを守るのが大変、ルールが違うから	・技術、経済が発展している・子供のころから日本に行きたいと思っていた・桜があって綺麗だと思った・TVで日本を見た、さくら、紅葉、海がきれい
2	・ベトナムには桜がない、さくらが綺麗でした	・トイレが水で自動で流れる・便座が温かい	・技術が進んでいる、ルールを守る、自分の成長になる・大学の先生が日本に3年間住んでいて日本の文化、習慣を習った
3	・部屋が広くてきれいで便利、部屋にお風呂があり、何でもある・パーティーを開いてくれて、みんなでご飯を食べたこと	・ほこりが少ない	・日本のルール、真面目なところ・ドイツ人は大きく、日本人は体格が似てる・これから日本はベトナムに病院を建てるから・空気が綺麗だから
4	・夜、寝る時に家族のことを思い出すこと	・空気が綺麗・交通規制・日本の料理は食べにくい、味が違う、フォーを持ってきた・アパートで自分で料理をしている	・子供の時祖母と同居していて、日本のTVを観た。祖母は日本行きたがっていた・日本人は熱心に働くから
5	・日本に住んでいること、働けることが嬉しい	・道がきれい、車が新しい	・父を選んだ・姉の夫が技能実習生として建設業で働いているから・ベトナムでは仕事がない、日本には高齢者が多い
6	・友達と先生と100均やスーパーに行ったこと。	・道がきれい	・学生(NS)にいい仕事がない・1か月の給与は2万円で日本を選んだ・日本の漫画が好き(ワンピース、ドラえもん、ドラゴンボール、コナン、1ℓの涙など)だったから
7	・日本人といっぱい話ができること・先生たちと会えて嬉しかった・スーパーに行った(コーナン、ライフ、100均)	・道や空気が綺麗・どこに行っても挨拶がある	・子供の頃、祖母が病気だったが何もできなく、母が介護をしていたので、NSになった・日本は高齢者が多いから・日本人は優しい・空気もきれい・妹は日本が好きで、宇都宮の大学にいて日本文化を学んでいる
8	・桜を見て寺に行ったこと・とても綺麗だった・生活便利なこと(トイレ、コンビニ、アパート)	・夜、人がいない・食事がおいしかった	・日本語、介護も勉強したので・兄がドイツで留学をしていたが、母がドイツは遠いので反対したから・母の友人の子供が日本にいて情報を聞いていた・初めから日本が良かった・
9	・桜を見にいったこと(綺麗でした)、お寺、海に行ったこと・お好み焼きを食べたこと	・夜が静かでよく眠れる	・日本で働いている友達に日本のことを聞いた(建設業:愛知県で技能実習生)※ドイツで働いている人は周囲にいない
10	・先生が優しく熱心してくれる。休みは一緒に遊んで、いちご狩り、お寺、お好み焼きがおいしかった・ベトナムにいる時は食べられないと思っていたがおいしかった	・空気がおいしく、綺麗・スーパーに行くとき沢山のものが売っている。・スーパーのレジでお金を入れたらおつりが出てくる。トイレの便座、ボタンが沢山ある。	・インターネットで日本は素晴らしい、発展している国と知ったから・高齢者を世話する人が少ないので行こうと思った・大学の時ドイツと日本で迷ったが、同じアジアの日本にした
11	・週末に遊びに行くこと	・電気モノが多い・部屋は住みやすい・ベッドが寝やすいし枕がいい	・技術と経済・日本は高齢者が多いので・同じアジアで文化、顔も似ている・四季がある・ヨーロッパ人は体格が大きい・ヨーロッパは寒い・台湾には行きたくなかった→国が小さい・日本の高齢者を助けたいと思った

表 3 1 期生ヒアリング内容

NO	7	8	9
	介護職を選んだ理由	ホアンロンでの寮生活・APS スキルラボで大変だったこと	ホアンロンでの寮生活・APS スキルラボで楽しかったこと
1	・老人の世話がしたい・老人は1人なので、世話をしたい・おばあさん、お父さん、家族を見たい	・ルールを守ること・朝のジョギング・介護の専門用語を覚えること	・奨学金を貰ったこと・友達との寮生活・日本の先生と友達と一緒に弁当を食べたり、一緒に介護を勉強したこと
2	・介護は大事な仕事、将来ベトナムは高齢者が増える、高齢者をサポートしたい・介助をすると自分が幸せになれる・看護の大学を卒業したが、ベトナムでは働く施設がない	・日本人の働き方を知らなかった、真面目、ベトナム人は時間を守らない、約束を守らない(勤務時間7:30~11:30、13:30~16:30)	・日本の先生とホーチミン廟などに遊びに行ったこと
3	・NSの仕事は偉い仕事だと思っていた、私も人のお世話をしたかった・卒業後、ベトナムではNSになれない・ベトナムはNSが多いが、病院が少ないので就職できないが、日本は介護人材が少ないのでチャンスだと思った	・介護の専門用語、足浴を覚えることなど	・ホアンロンの寮生活は大変だったので、日本の先生たちといろいろな遊びに行ったこと
4	子供の時、祖母と住んでいて、15歳の時祖母が病気になり、当時はできなくて、高齢者のお世話をしたいと思った	・ホアンロンでの日本語の勉強が多かったこと	・友達や日本の先生と知り合えたこと・授業は厳しかったが、終わったら優しかった
5	・子供の頃、祖父、祖母が亡くなり、世話をしたかったができなかったから・私を育ててくれた両親の世話を将来したいから	・人とのコミュニケーション ・私は体が小さいから介助が大変だった	・日本の先生と話したり、日本の文化について聞いたりしたこと・寮生活が楽しかった・おむつ交換の時楽しかった
6	・自分はNSで高齢者が好きで、日本には多くの高齢者がいるから	・ジョギング・勉強が毎日10時間・読むのは大丈夫、聞くのが苦手	・技術の授業を人同士でやったこと
7	・NSとして病院で半年働いていて、毎日患者のお世話をして、元気になれば嬉しかったから	・ごみの分別、時間を守ること・毎日10時間勉強をすること・5:30に起きてジョギングをすること	・スキルラボでの勉強・休みの時みんな遊びに行ったこと(ホーチミン廟、山、お寺など)
8	・大学でNS資格を取得して、日本に行くつもりであった	・おむつ交換・片麻痺の人の着替えが大変だった・ルールが分からなかったからしんどかった	・先生たちとの練習が楽しかった・日本語の練習ができた
9	・高齢者のお世話をしたいと思ったから	・ホアンロンのルール、ジョギング・利用者の排泄介助が大変だった	・授業が終わってからの話
10	・高校生の時TVで介護の仕事は素晴らしいことを知った・今はまだ祖父も祖母も元気だが将来世話をしたいと思った・友達Aさんに日本に行くことを誘われた・日本に行ったら成長できると思ったから	・岡部先生の時(APS1か月目)日本語が分からず、コミュニケーションが大変であった。橋本先生(APS3か月目)の時分かるようになった・ホアンロンではジョギング、ルールが大変であった。	・先生たちが日本からベトナムに来て優しかった・分からないとき簡単な日本語で話してくれた・ホアンロンではたくさん友だちができた・先生もユーモアがあった
11	・祖父が脳出血になり自宅車いす生活をしているが、両親は働いていて誰もお世話ができなく、介護をしようと思った・3年間NSの勉強をしたがベトナムではNSでの仕事がなく、日本には介護士が少ないから	・6月専門の勉強が分からなかった3か月間(岡部先生の言葉)、9月から西先生の言葉が分かるようになった・日本語の勉強をすることが大変だった。試験が大変だった。特に、聴解。	・スピーチ大会、運動会、お祭り、12月24日のクリスマス・日本より新しい先生が来るのが楽しかった・ベトナムの有名ところにみんなで遊びに行ったこと

表 4 1 期生ヒアリング内容

NO	10	11
	大阪APSスキルラボ修了から入国許可が出るまでの3カ月間の気持ち	将来の夢及び目標
1	・行けるのか心配だった・家族にいつ行けるのか聞かれたが心配しないようにと言っていた。・日本行を辞めようとは思わなかった・もうすぐ日本に行けると思って不安はなくなったのしみであった	・将来ベトナムに介護センターを開きたい・日本には10年ぐらいいたい・長ければ長いほどいい
2	・心配だった・家族に会うたびに聞かれて、4月入国と答えていた・日本に行けると思い勉強を続けた・ベトナムで日本行を楽しみにしていた	・日本が好き、3年後、可能であればずっと住みたい
3	・ドキドキしていた・日本の先生たちから日本に行けると教えてもらっていたので、日本に行くことを辞めたいとは思わなかった・日本からのサポート、日本の先生からのFacebook、ステージさんの歌と応援歌メッセージがあり嬉しかった	・日本語が上手になってベトナムで日本の病院で働きたい、NSなので注射ができる ・できればベトナムでケアマネージャー、N1も取りたい、できれば5年間ぐらいいたい・通訳・日本人の気持ち（本心）を知りたい、良いのか悪いのか分からない・感想を言うとき説明しにくい
4	・日本に行けるのか心配であった・日本語を忘れた・日本行を辞めたいとは思わなかった・将来、家族のことを考えて3年から5年間日本にいて将来は家族を助けたい	・ベトナムに帰って介護をしたい・将来介護は発展する・独居のおばあさんを手伝いたい・家族のことを考えて3年から5年間日本にいて将来は家族を助けたい
5	・心配だったが、Facebookで話をしている、安心してた。両親は心配していなかった。	・ベトナムの日本の施設、病院で働きたい。両親は安心してた。日本に行くつもりであった・3年間でN3,N2を取りたい・帰国して子供が好きだから結婚をしたい
6	・不安、応援（Facebookでのステージの歌、さくらの写真）・辞めようとは思わなかった	・3年後ベトナムに帰って日本の病院で働きたい・日本にずっといたい、親が結婚するように言うが、自分は独身でもいい・将来、本屋さんになりたい・N1を取りたい
7	・不安だった・両親にいつ行くのかよく聞かれた・日本行を辞めたいとは思わなかった	・N2を取りたい・将来ベトナムに帰って日本の病院で働きたい。まずは3年、いい仕事があれば5年いたい・ベトナムでは23歳で結婚するが、今は独身でいいが将来は結婚したい・29歳で結婚したい
8	・ちょっと不安だった・いつ日本にいけるか、親より聞かれたが、答えることができなく、父よりは辞めた方がいいと言われたが、私は日本に行きたかった	・3年後通訳をしたい・日本には5年間いたい・介護の仕事は好きです。
9	・心配で不安でしたが日本の先生たちが応援をしてくれた・Facebookでのステージさんの応援が嬉しかった・家族は心配していたが日本行を止めず、いいチャンスだと応援をしてくれた	・日本式介護についての通訳・10年間ぐらい日本にいたい・日本でいい人がいたら結婚をしてもいい
10	・日本に行けるのか心配で不安だった・さらに家族からも聞かれたが、日本行をやめようとは思わなかった・介護の道を選んだので、最後まで諦めなかった・ステージさんの応援を聞いて安心した。・日本になかなか行けないから父に反対されたが、日本に行きたいことを父に話した・先生たちがベトナムに来ているからきっと行けると思っていた	・ベトナムに帰って日本語の先生になりたい（APSスキルラボ,ホアンロン）・5年ぐらい日本にいたい、両親は3年でいいと言っている
11	・いつに日本に行けるのか心配だった・日本行を辞めようとは思わなかった・日本からの励ましがあって安心してた・ステージさんのFacebookでの応援が嬉しかった	・2020年N2を取る・健康に気を付けたい・日本には3~5年間いてベトナムに帰って病院や施設で働きたい

- ¹ 「出入国管理及び難民認定法」(昭和 26 年政令第 319 号。以下「入管法」という。)とその省令を根拠法令として実施されてきたが、技能実習制度の見直しに伴い、新たに技能実習法とその関連法令が制定され、これまで入管法令で規定されていた多くの部分が、この技能実習法令で規定されることになった。
- ² 公益財団法人国際人材協力機構 外国人技能実習制度の概要
<https://www.jitco.or.jp/ja/regulation/> 2021 年 1 月 18 日閲覧
- ³ 認可法人 外国人技能実習機構 平成 30 年度業務統計
https://www.otit.go.jp/gyoumutoukei_2018/ 2021 年 1 月 18 日閲覧
- ⁴ 厚生労働省 ベトナムとの協力覚書
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000180849.html> 2020 年 12 月 20 日閲覧
- ⁵ 「介護人材 1 万人受け入れ 政府 20 年目標 ベトナムと合意」『日本経済新聞 2018 年 7 月 25 日、朝刊、1 面
- ⁶ 内閣官房健康・医療戦略室 「アジア健康構想」について
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/kokusaitenkai/eiyo_bukai_dai2/siryou03.pdf 2020 年 12 月 20 日閲覧
- ⁷ 内閣官房 健康・医療戦略室 ベトナムヘルスケア分野における協力覚書への署名・交換について
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/pdf/20190701_vietnam_hc.pdf
 2020 年 12 月 20 日閲覧
- ⁸ 社会医療法人愛仁会、設立：1958 年 11 月、所在地：大阪市西淀川区佃 2-2-46、代表施設：高槻病院
- ⁹ 社会医療法人ペガサス、開院：1984 年 10 月、設立：1995 年、所在地：大阪府堺市西区浜寺船尾町東 4-244、代表施設：馬場記念病院
- ¹⁰ 社会医療法人生長会、開院：1955 年 11 月、設立：1964 年 11 月、所在地：大阪府堺市中区東山 500-3、代表施設：ベルランド総合病院
- ¹¹ 2018 年 5 月にベトナムのハノイ市に「大阪 APS スキルラボ」を立ち上げた。これは、内閣官房の「アジア健康構想」に則り、国際介護人材育成を目指してベトナムハノイ市に開設された介護技術や知識を身につけるための職業教育機関であり、社会福祉法人愛仁会においては、日本政府が選定した「介護技能実習生のための優良事業者」12 業者のひとつに選ばれた。
- ¹² 技能実習生の日本入国前の 4~6 か月間、派遣先において、迅速に技能実習に順応するために、日本語や専門知識の学習のみならず、習慣や文化、職場でのルールやマナー、労働安全に関する教育も実施している。
- ¹³ 日本語能力試験 (JLPT) の N1 から N5 の目安。N1：幅広い場面で使われる日本語を理解することができる。N2：日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる。N3：日常的な場面で使われる日本語をある程度理解することができる。N4：基本的な日本語を理解することができる。N5：基本的な日本語をある程度理解することができる。
- ¹⁴ ワンピース、ドラえもん、ドラゴンボール、コナン、1 リットルの涙という回答があった。